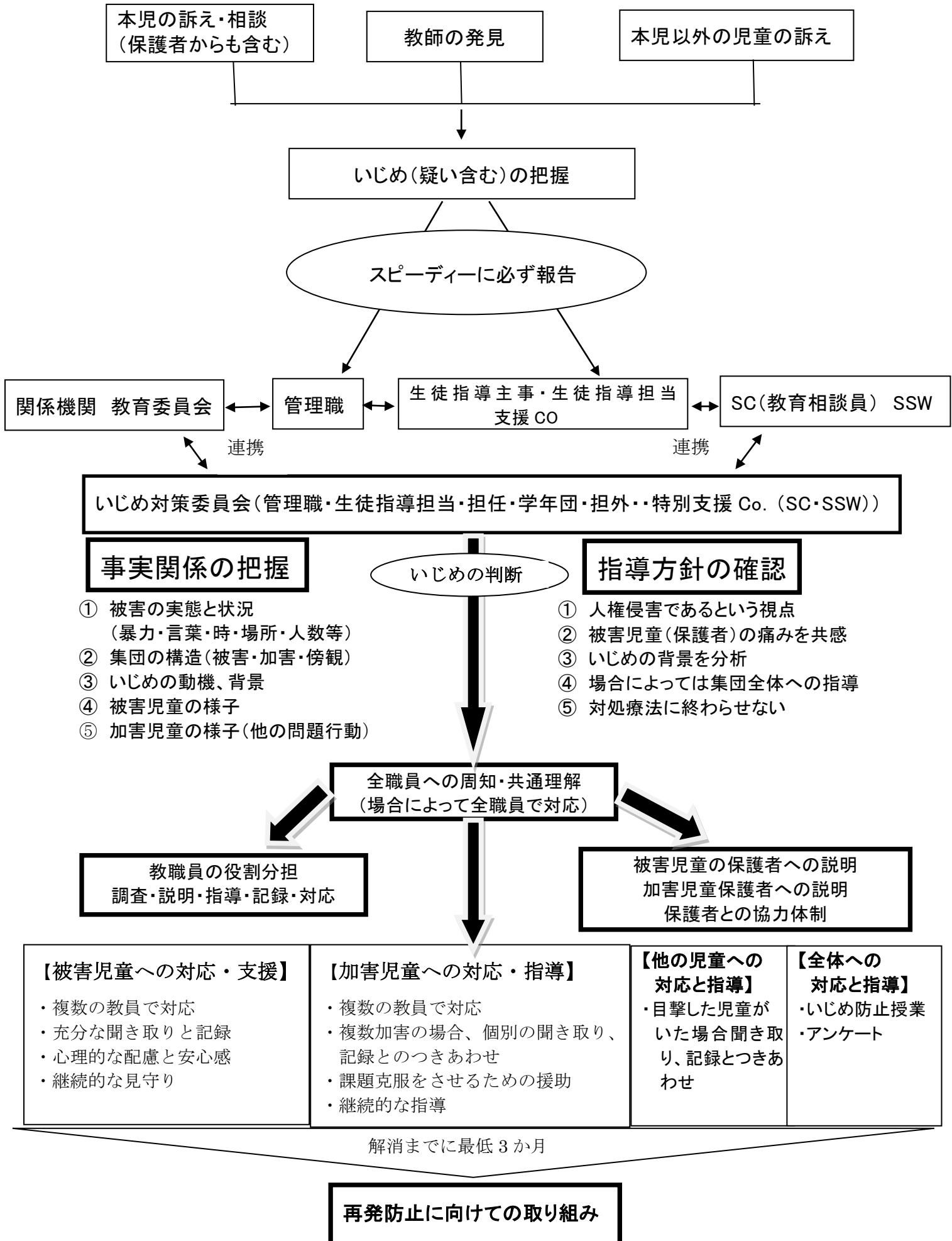


いじめ防止対策等に関する年間計画						
	学校	児童生徒	保護者	地域・その他		
4月	いじめに対応する委員会 (随時)	参観・学級懇談				
5月		運動会		PTA総会 学校評議員会 地域教育協議会		
6月		いじめ生活アンケート	オープンデイ			
7月			個人懇談			
8月		学期末集計、点検・検証 校内研修(予定)				
9月			いじめ予防授業			
10月						
11月		いじめ・不登校防止コア会議 (月一回)	学校教育自己診断			
			いじめ生活アンケート	オープンデイ		
				個人懇談		
12月		学期末集計、点検・検証				
1月			オープンデイ			
2月	支援コア会議 (週一回)	いじめ生活アンケート	参観・学級懇談		PTA総会	
3月		年度末点検・検証			地域教育協議会	

【組織的な対応の流れ】



【留意事項】 *大阪府教育委員会「いじめ対応マニュアル」(平成24年12月参照)

「いじめ対応プログラムI」(平成19年6月参照)

○いじめを訴えてきた児童への対応

- ・子どもの心身の状態等に配慮し、子どもの立場に立って思いを十分に聞き取る。
- ・いつ、どこで、誰に、何をされたか、事実を整理しつつ丁寧に聞き取る。
- ・聞き取りをする場所も含め、話しやすい雰囲気づくりに配慮する。
- ・結論を誘導したりせず、本人の言葉が出るまでじっくり待ち、本人の要望を十分に聞く。
- ・担任一人で、いじめかどうか判断をしない。

○いじめたと訴えられた関係児童への対応

- ・いじめたと決め付けて話を聞くことがないように気をつける。
- ・事実関係の正確な把握や、学校から関係者への説明を適切に行うために、記録を取る。
- ・それぞれの児童から、個別に話を聞き、事実関係のつきあわせを行ないながら全体像をつかむ。
- ・目撃した児童・生徒がいた場合、その児童・生徒からも状況を聞く。
- ・携帯電話等情報機器を使用したいじめの場合、その情報がどういう経路でどの程度広がっているのかを確認する。

○いじめに対する委員会

- ・事実関係から、いじめの事態について判断する。
- ・いじめの事実のあるなしに関わらず、訴えた児童を支援する対応策を考える。
- ・できる限り具体的な支援策や対応策を立て、担任一人に任せることなく、全教職員で対応できるよう詳細な役割分担を行う。(誰が、いつ、どこで、何をするのか)
- ・保護者への説明方法、説明内容等も具体的に検討する。(複数対応、電話では済ませない。)
- ・スクールソーシャルワーカー・弁護士等との連携や緊急・重篤な事案に対しては、「警察等関係諸機関との連携」、「保護者・地域の状況説明」、「報道機関等への情報提供」など相談・協議する。